

会議状況等報告書							報告者	小高 清楓			
会議の名称		令和7年度第3回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会									
日時		令和8年3月2日(月) 午後1時00分～午後2時10分					場所	おおぶ文化交流の杜図書館 サポーター室2			
出席者	委員	松岡礼子	加古有子	鈴木善博	神田由美	赤堀路世	竹内紀人	三品翔			
		○	○	○	○	○	○	欠			
	事務局	中村部長	細谷課長	深谷係長	小高主事	村上図書館長	小倉マネージャー	吉原次期図書館長			
		○	○	○	○	○	○	○			
傍聴者 0名											
内容											
<p>1. あいさつ</p> <p>【委員長あいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日も滞りなく議事が進むよう、皆様のご協力をお願いしたい。よろしく願います。 <p>【村上図書館長あいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月末で名古屋市図書館へ人事異動することが決まった。3年間お世話になり、感謝申し上げます。 <p>【吉原次期図書館長あいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、知多市立中央図書館長を務めている。村上館長から現在の取組を滞りなく引き継いでいきたい。ご指導のほどよろしく願います。 <p>2. 議題</p> <p>(1) 重点項目3点の進捗について</p> <p>①学校連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から市内全小中学校で電子図書館読み放題パックを導入。毎月約4万回の閲覧がある。 ・4月～9月の閲覧回数は、人口10万人以下の自治体で全国2位。※TRC調べ ・10月からは公立保育園との連携も開始。隠れた名作絵本を選書し、団体貸出を実施している。 ・司書が選定した絵本タイトルは図書館のアーカイブとしてホームページに掲載し、誰でも閲覧可能としている。 <p>②書店連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝書店との共催イベントを企画したが、書店側から採算面の理由により見送りとなった。 ・店内への返却ポスト設置案についても、図書館来館者数への影響を考慮し見送った。 ・今後は書店店員と図書館スタッフ間でおすすめ本や図書館ランキングを共有し、交流を深めていく。 											

③業務改善

- ・業務のマンネリ化を課題とする中、2025年1月からスタッフの入れ替わりが多かったことを踏まえ、スタッフから業務改善案の募集やカウンター調査を実施した。
- ・その結果、班の再編成や担当業務の見直しを行い、4月から新生おおぶ文化交流の杜図書館として運営していく。

④来年度のスローガン

- ・来年度のスローガンは「とりあえずやってみよう」と設定。

(2) 令和7年度8月～11月事業実施報告について

※資料1～5に基づき事務局説明

①施設利用状況

- ・レファレンス件数が大きく増加。日頃の取り組みが評価され、国立国会図書館から企画協力員賞を頂戴した。

②蔵書貸出統計

③地区別登録者数・貸出者数

④事業実施報告

⑤発生した事故・ご意見

【意見交換】

(加古委員) 保育園との連携について私立とは連携が進んでいるのか。

(村上館長) 進んでいない。公立の9園のみである。

(鈴木委員) 10月21日に発生した事例について詳しくお聞きしたい。

(村上館長) 基本9歳以上の方はご本人来館で利用者カードを作成する。今回の子どもは高校生以上なので代理は難しいと初めは伝えたが、本人の来館が困難であるとのことだったため特別対応を行った。

(3) 大府市読書活動推進計画2026の改訂について

※資料6に基づき事務局説明

【意見交換】

(加古委員) 読書の定義の中に電子書籍は含まれるのか。

(事務局) 含まない。

(加古委員) 現在は電子書籍を読む割合が増えている。実情を反映するような質問方法を考える必要がある。雑誌や新聞、マンガはいかがか。

(事務局) 国の統計ではマンガ・新聞は含まれていない。電子書籍については、近年、不読率に含めて考える自治体も増えているため、検討していきたい。

(赤堀委員) 電子書籍は新旧に関係なく手に取りやすく、非常に扱いやすい。

(神田委員) 電子書籍の利用を市がどのように推進するかに関わってくる。電子の方が利用しやすい方もいる。一方で、北欧では電子から紙に戻そうという動きもある。電子と紙がそれぞれの弱点を補い合う必要があると感じる。

(加古委員) 大府市の計画の中に、大府市独自の評価軸を入れることは可能か。

(事務局) 可能である。担当課との調整は必要となるが、市民意識調査の質問項目を増やすことも含めて、前向きに検討したい

- (鈴木委員) 目標が不読率でなければならない理由は何か。
- (事務局) 文部科学省が示している計画の中で不読率の改善が掲げられており、全国的なモデルがこれに倣っているためである。
- (竹内委員) 大府市として、どのような方向性で改訂したいと考えているのか。
- (事務局) 乳幼児・こども向け図書の貸出冊数が減少している現状を踏まえ、子ども向けの読書活動を推進していきたいと考えている。
- (加古委員) 乳幼児の数は減っているのか。
- (事務局) 減っている。
- (加古委員) 地区別の登録者数・貸出冊数の表現方法について、人数・冊数だけでなく割合を示してはどうか。乳幼児が減少していれば冊数が減るのは当然であるが、割合で追えば分析の幅も広がる。
- (鈴木委員) 本に触れる機会づくりという観点であれば、駅のフリースペースで出張図書館を実施するのも良い。大府市としてどこに力を入れ、どこを目指しているのかも知りたい。
- (松岡委員) 意識調査は18歳以上が対象であるため、こども向け施策を行っても数値に反映されにくいと感じる。読書を遠いものに行っている印象があるため、質問の入れ方や見せ方、問い方を工夫してほしい。
- (事務局) 不読率とは別に、大府市としての読書率(雑誌・新聞・小説等を含む)という指標を立てることも検討する。
- (神田委員) 読書活動を推進するうえで重要なのは、本と出合うきっかけをつくることと、個人に合った良書を紹介することだと考える。読書を継続してもらうためには新しい本と出合う機会が必要であり、電子書籍のみでは難しい面もある。案として、乳幼児期に対しては、図書館講座や託児サービスの充実はもちろん、ブックスタートにおいて図書館で本を借りられるチケットを配付してはどうか。来館につなげ、図書館利用のハードルを下げるきっかけになる。また、中学校期には漫画家のトークショーを開催するなど、忙しい中でも足を運びたいと思わせる仕掛けづくりが必要である。さらに、ボランティアについても課題がある。高齢化により活動自体が縮小している。図書館子どもまつりが3~5年後に現在の形で実施できるか不安である。ボランティアグループを新規に立ち上げ、育成していく必要がある。手助けにとどまらず、積極的な育成を行わなければ、現在実施できている事業の継続が困難になる。

3. その他

委員の継続について

【次回開催連絡】

令和8年度第1回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会

日程：令和8年5~6月開催予定

場所：おおぶ文化交流の杜

以上